

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:2021年3月17日

事業所名:「ゼノ」にばと園 保護者数(児童数) 72 回収数 63 割合 87.5%

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	56	6	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・走り回れるほど十分に広いスペースがあると思う。人数も適切だと思う。 ・のびのびと遊んでいる姿が見れて嬉しい。 ・園庭がもう少し広がったらいいなと思う。 ・室内で遊ぶのは少しせまく感じる。 	<p>○建物基準などは基準を十分満たしていますが、築43年経ち老朽化していること、また難聴幼児通園施設の基準でスタートし、定員や制度の変更に伴い増築、改築を重ねているため複雑な建物構造になっています。</p> <p>子どもの年齢や状態、療育形態も様々で、日替わりの部屋使用になります。</p> <p>子どもたちにとって、安心して分かりやすく楽しく活動できる環境づくりに努めます。</p> <p>保護者の皆様のご理解をお願いします。</p> <p>○職員の配置基準は大きく上回っていますが、難聴・発達・相談など、部門も療育形態も様々で、安全で質の高い支援を行うには、職員数が多く必要です。円滑に安全に支援を行えるよう調整をすること、併せて、職員の専門性の向上に努めます。</p> <p>○危険箇所気づいたらすぐに対応し、清潔で心地よい環境であるよう努めます。皆様のご協力をお願いします。</p> <p>○今後、改築や新築移転などを検討したいと思います。</p>
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか。	45	12	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの人数に対して適切だと思う。 ・少ないと感じる時がある。 ・配置数は満たしていても+αで一人ほしい。それは、スタッフと保護者が情報共有の話をしている時に、新人の先生もその場で参加して、保護者との関わり方や説明の仕方等を教わり、スキルアップしてもらいたいから。色々なベテラン先生の対応をよく見て、スタッフを育成してほしい。 ・目が行き届いていない。園外への飛び出しがあった。 ・よく勉強されている先生ばかりで、とても安心できる。 ・子どものことをよく分かってくれて、教えてもらえるので助かる。 ・前期は、保護者の懇談の間、子どもが落ちつかなかつたり、怪我也多かったの、見守る職員がもう少しいればよいと感じた。 	
	③ 生活空間は、本人に分かりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	47	9	2	5	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下や階段がすべりやすく、特に階段は怖く感じる所以对応してほしい。 ・前日にメールでどの部屋かを知らせてくれると子どもに事前に伝えられて有難い。 ・排泄の失敗が多いので、トイレと別の着替のスペースがあると助かる。 	
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。	48	15	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策の換気で仕方ないことは分かっているが、冬場は室内でもかなり寒い(2)。 ・先生方がよく掃除をされていて綺麗。建物は古いので、いつか立て直しがあるのが楽しみ。 ・教室やトイレの手洗い場に赤い水あかがたまっているのだけが気になる。 	

適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか。	56	3	0	4	・よく見てくれて有難い。 ・一人一人をよく見てくれていると思って、最初見た時は驚いた。	○「ゼノ」こぼと園では、お子さんと保護者の方に一緒に通っていただき、障がいや発達の状態に合わせ、集団療育と個別療育を行います。楽しい遊びや体験を通して発達の土台の力を育て、意欲的で安定した生活が送れるように取り組んでいます。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	52	2	1	8	・職員により差が大きい。	<発達支援> 難聴のお子さんに対しては、聴力状態の把握や補聴器・人工内耳の装用・調整・聴覚活用をすすめ、またすべてのお子さんに対して、人と関わる力、経験や気持ちに根ざしたイメージやことば・コミュニケーションの力を育てるように取り組んでいます。 <家族支援>
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	55	4	0	4		親子通園、保護者懇談会などを通して、我が子を理解し子育てに元気と見通しが持てるように支援したいと取り組んでいます。
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか。	52	5	0	6	・いろいろと考えてくれているので、親も楽しませてもらっている。	<地域支援> また、保育所や幼稚園・こども園などと併行通園されている方は、園との連携を通して、安定した生活が送れるように支援しています。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	27	10	15	11	・コロナの影響なのか途中から入所したからなのか交流に参加したことがないので分からない。 ・コロナの影響でなかった(4)。 ・併行通園をしているので、活動する機会が多いが、こぼと園の子たちと一緒に他と交流することはほとんどなかった(2)。	○これらガイドラインに沿った内容で児童発達支援計画を立てていますが、一人ひとりへのより丁寧な説明を心掛けて行くよう努めます。 ○支援内容については、概ね保護者のみなさんのご理解を得ていると思われませんが、さらに丁寧な説明とニーズの把握に努めると共に、研修や検討を重ね、療育の質を向上させるよう努めます。
	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか。	56	6	1	0	・最初に時間をかけて伝えてもらえて分かりやすかった。	○入園時(入園説明会)及び毎年度初めの入園式の時に説明しています。ご意見や疑問がありましたら、いつでもその都度、丁寧に説明させていただくように努めます。
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか。	52	5	2	4		○前期と後期に分けて、個別に説明や確認を行っていますが、より丁寧な説明を行うよう努めます。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか。	41	7	3	12	・ペアレントトレーニングと呼ぶのかはわからないが、日々の活動の中でアドバイスはしてもらっている。	○集団療育と個別療育を行います。親子で通っていただき、親子で一緒に遊び、活動し、活動終了後には保護者懇談の時間を必ず持ち、活動の意味やこどもの様子について話し合います。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか。	52	7	1	3	・聞きとりが充分でない。 ・親子通園の良さであると思う。 ・連絡帳や懇談などで、その都度悩みを聞いて下さり、助言いただき、本当に有難い。	共に考えあったり、共有したりすることを通して、保護者が、我が子を理解し子育てに元気と見通しを持って仲間と共に歩んでいけるように支援したいと考えています。
						・先生は皆よくしてくれているが、コロナ禍で以前のようにできないのかもしれない。		

保護者への説明等	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	57	5	1	0	<ul style="list-style-type: none"> ・集団療育や個別療育の後のお話で疑問や困りごとなど、親身に聴いて下さり、有難い。 ・内容が充分でない。 ・個別療育でくわしく教えてもらえたり、親子通園日で親だけの話し合いがあり助かっている。 ・日々の話が、勉強になることばかりで有難い。 	<p>○日々の親子通園、保護者懇談に加えて、学習会や保護者教室、又前期・後期の保護者とのまとめの会などを行い、子どもの状態課題などについて共通理解し、とりくみをすすめていきます。コロナ禍で全体の研修会や学習会を中止せざるを江馬sんでしたが、感染対策をして実施していきます。</p>
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか。	43	9	4	7	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策で中止になる行事が多く、グループが違う保護者の方との交流が少なかった(2)。 ・今まではあったが、今年度はコロナの影響でほとんどなかった(3)。 ・コロナ禍で難しい中でも学習会やフリートークの場を設けてくれて有難い。 	<p>○保護者とは、直接対話、電話、連絡帳などの方法で意思疎通や情報伝達を図っています。また、緊急時などの情報伝達は、メールでの一斉送信も行います。</p> <p>○保護者教室やこぼと会などの保育(託児)は、必要があれば、可能な限り行っています。</p>
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか。	53	7	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの問題が他職員に共有されていない。相談に対して長期にわたり、改善されなかった。 ・質問やお願いしたことに対していつも丁寧に素早く対応してくれている(2)。 ・たまに説明がなく、不安に思う時がある。 	<p>○こぼと会(こぼと園保護者会)、療育を守る親の会など、積極的に活動していただいていることに感謝します。その中で、利用者の声などご意見もいただいております。よりよいこぼと園であるように努めてまいります。</p> <p>あわせて、今回の事業所の保護者評価、自己評価をもとに、園のあり方や支援の在り方を見直し、よりよいものになりたいと思います。</p>
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか。	54	7	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳にも都度連絡を書いて下さり、情報共有ができたと思う。 	
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	46	6	1	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ルビはあっても、日本語の意味が理解できなくてなかなか読めない。大切なことは直接話して伝えてもらっている。 	<p>○社会福祉法人「ゼノ」少年牧場の機関紙「ふれあい」や「こぼと園だより」を配布しています。あわせて月々の予定表、行事や研修会などのお知らせを配布しています。</p> <p>○「ゼノ」少年牧場のホームページがあります。できるだけ更新するように努めます。</p>
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか。	54	5	0	4		<p>○個人情報の取り扱いについては、入園時に同意していただいております。</p> <p>○お互いを知り合い理解し合うことと、個人情報の保護とのバランスをとりながら保護者支援をしていくことに努めたいと思います。</p>
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	38	8	3	14	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練には参加したが、マニュアルについてはよく分からない。 ・避難訓練をしているのは知っているが、療育の日と重ならず参加できていない。 ・避難訓練に参加できていないので、どう避難していいか把握できていない。 	<p>○防災対策は、毎月の避難訓練と建物の安全管理(火災報知機の点検、消火器の設置、危険個所の把握と対応など)に努めています。避難訓練については、毎日通園でない子どもが多いため、すべての子どもに経験できるように計画をたてて実施します。</p>
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか。	38	8	4	13	<ul style="list-style-type: none"> ・前期のみでなく、後期にも取り入れてほしい。 	

満足度	②② 子どもは通所を楽しみにしているか。	59	4	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・すごく楽しんで通っている(4)。 ・行くと楽しそうにしているが、家を出る時に行きたくないということがある。 ・まだ年齢が小さいため、何をしに来ているか分かっているのか分からない(2)。 ・毎朝、「今日こぼと？」と聞いてくるほど、とっても楽しみにしている。 ・毎日温かく見守ってくださり、親自身もとても楽しみにしている。 	○子どもにも保護者の皆さんにも満足してもらえるよう、引き続き努力していきます。
	②③ 事業所の支援に満足しているか。	56	5	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・大満足です。 ・子どもだけでなく、親のケアまでしてもらえて大満足。 	

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2021年3月17日

事業所名: 「ゼノ」にばと園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	15	7	・部屋の大きさに合わせて療育内容を考えることで対応している。	○建物基準などは法令を遵守しているが、築43年経ち老朽化していること、また難聴幼児通園施設の基準でスタートし、定員や制度の変更に伴い増築、改築を重ねているため、複雑な建物構造になっている。死角もあり、見通しの持ちにくい建物構造なので、安全性に気を付け、できる限り、子どもにとって見通しが持ちやすいように手掛かりや働きかけを行い、整理され、安心して分かりやすく楽しく活動できる環境づくりに努める(2020年春、門扉を作ってスペースを分かりやすくした)。
	②	職員の配置数は適切である。	13	9	・保護者の懇談中の保育のボランティアをお願いしている。今後も協力をお願いできるとよい。 ・保育の人手が足りないことがある。職員が休憩がとりにくい。 ・基準は満たしているが、園の体制の中で不十分な時がある。	○部門(難聴・発達・相談)や療育形態(集団療育・個別療育・親子通園・毎日・併行など)、年齢(0歳～就学前)や状態、療育内容などが複雑なので、職員同士事前の打ち合わせをし、訓練室や検査室等の使用を調整している。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている。	10	12	・分かりやすい手掛かりや教材を工夫している。 ・少しずつ改善してはいるが、死角になる場が多く、職員の目が行き届きにくい。 ・建物や、療育の形態の複雑さがあり、子どもにとっては分かりにくいところがある。ドアや出入り口、遊具の移動などをして改善に努めている。	○職員の配置基準は大きく上回っているが、難聴・発達・相談など、部門も療育形態も様々であるため、安全で質の高い支援を行うには、職員が基準以上に必要である。また、親子通園であり保護者との懇談を大切にしているが、保護者懇談の時間帯に十分な保育体制をとることが課題である。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	11	11	・できるだけ清掃や物の整理を心がけ、活動に合わせて園外の利用も実施している。 ・時に掃除が十分でない時がある(2)。 ・トイレなど手元に消毒できるものを設置するとよい。アルコール消毒を実施している人が少ない。	職員体制整備・充実のための意見を関係団体の協議の場などに挙げていく必要がある。 ○危険箇所気づいたらすぐに対応し、清潔で心地よい環境であるよう、保護者の協力も仰ぎながら努力する。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している。	18	4	・個々の職員レベルですすめられ、日々の振り返りも不十分。時間の工夫が必要である。	○職員会議等の場で全体の状況把握や意見の集約を図る。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	22	0	・発信がある保護者には対応検討しているが、全体の意識という点では把握の難しさがある。	○引き続き、保護者との共通理解に努めながら、職員全体での共通理解、認識を図り、具体的な業務改善に向けて努力する。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	16	6	・各部門の状況が十分に全体に伝わりにくく、対応についても周知されにくい状況を感じる。	○保護者評価、事業所の自己評価に基づき、今後の改善に生かしていく。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	14	8	・外部評価があるのかどうかも伝わっていない。	○内部研修・外部研修などを計画的に行い、職員の学ぶ意欲を高め、職員の専門性や人間性を高めるように努める。コロナの影響で外部研修に出かけることはなかったが、オンライン研修に多くの職員が参加できた。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	22	0	・各自のニーズに合わせて研修を実施している。 ・コロナの影響のため、研修機会が減少している。	

適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	21	1	・分析することの弱さも関係するの か、療育の質の向上という点ではもろ さを感じる。	○「ゼノ」こばと園では、ガイドラインに沿った支援を次のように行っているが、さらに充実させるように努める。 ①親子通園で障害や発達の状態に合わせ、集団療育と個別療育を行う。楽しい遊びや体験を通して発達の土台の力を育て、意欲的で安定した生活が送れるように取り組んでいる。 難聴児に対しては、聴力状態の把握や補聴器・人工内耳の装用・調整・聴覚活用をすすめ、人と関わる力、経験や気持ちに根ざしたイメージやことば・コミュニケーションの力が育つように取り組んでいる。(発達支援)	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	17	5	・発達検査を実施している。		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	21	1	・コロナ対策での制限があった。		
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	22	0			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている。	19	3	個別療育は、個人で行っている。		
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	20	2	・子どもの実態に合わせた対応・内容をとりあげている。		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している。	21	1	・担当間の意図の確認まで掘り下げたことは難しい現状がある。		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	22	0	・チームでの話し合いや研修、記録などの大切さを自覚しているが、時間がないことで十分にできない難しさも感じている。		
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している。	13	9	・毎回振り返りをして、その日の療育について先輩職員からフィードバックしてもらっている。 ・毎回振り返りができていないが、できるだけ職員間で気づきを共有している。 ・時間的な制約があり、記録の残し方も個人差がある。振り返りの大切さを認識することが必要である。 ・時間がとれない時もある(2)。 ・勤務時間内に効率よく時間を使うことや残業のとり方との兼ね合いを考える必要がある。		
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	22	0			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している。	21	1	・前期後期の中で整理できている。		
	関	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している。	21	1	・会議としては行いにくい、必要に応じて連携をしている。 ・コロナ禍で難しいことがあった。	○子どもの状態に応じて、特に配慮を要する子どもとその家族に対して、必要に応じて関係機関(母子保健、ネウボロ課、障がい福祉課、保育課、学びづくり課、基幹相談支援センター、こども発達支援センター、子ども家庭センターなど)と連携し支援を行い、子どものすこやかな育ちを支えることができるように努める。
		㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている。	21	1	・保護者を介しての情報の中で明確な情報把握のための連携は実施しているが、訪問しての連携がコロナ禍の関係もあり実施しにくい。 ・切実な状況でないと連携にまでつなげられていないことがあり、ケースによって差がある。	

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている。	21	1		○医療的ケア児に関しての関係機関との連携を強くするよう努め、主治医や協力医療機関との連絡体制を整備する。
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関と連絡体制を整えている。	18	4		○医療的ケアが必要でない子どもについても、医療機関との連携、情報共有に努める。
	㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	22	0		○併行通園している保育所、幼稚園、こども園などとの連携支援を充実させる。そのために、日常的な電話や連絡帳での連携に加えて、保育所等訪問支援事業を行うこと、療育懇談会(年1回、グループごと、公開療育と懇談会)や研修会(療育研修会・聴覚障害研修会など)を開催することなどを通して、充実を図る。コロナの影響で十分にできない実態があったが、連携先とも相談しながらよりリスクを下げることができる方法を模索していく
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	22	0		○移行支援、他機関との交流や情報共有、研修などについては、継続して行う。
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	20	2		
	㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある。	12	10	・今年コロナ禍でもあり、他施設との交流はなかった。 ・併行通園なので、日常的に交流はしている(2)。	※利用されている園児数が多いので、計画性をもって行うように努める。
	㉖	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している。	21	1		
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	22	0		○保護者への支援は、保護者との信頼関係を築くことを大切にしながら、親子通園、保護者懇談会、連絡帳の交換などの日常的な支援と、年数回の保護者教室や学習会などの学びの場を設け行っていく。そのために、職員の研修や事例検討を行い、より質の高い支援を行っていくよう努力する。コロナの影響でできない面もあったが、よりリスクを下げた実施できる方法を模索していく
	㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている。	20	2		
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	㉙	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	21	1	・入園式で行っている。	
	㉚	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の供給すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている。	21	1		
	㉛	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	22	0		○契約や、児童発達支援計画などの説明や動意に関して、児童発達支援ガイドラインで使われていることばに慣れておらず、理解されにくい面がある。できるだけその用語を使うように努力している。
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	20	2	・給食を他グループと一緒に食べることで保護者同士が関われるようにしている。 ・他グループの親との交流を、給食をいっしょに食べることで設けている。	○保護者とは、直接対話、電話、連絡帳などの方法で意思疎通や情報伝達を図るようにしている。緊急連絡はメールでの一斉送信で行う。 ○こぼと会(こぼと園保護者会)、療育を守る親の会などへの協力と連携を深める
	㉝	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	22	0		○保護者の意見をしっかりと受け止め、あわせて今回の事業所評価、自己評価をもとに、園のあり方や支援のあり方を見直し、よりよいものになるように努める

